

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2023年
11月29日(水)
第184号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

<このニュースは、東京の自治体保育労働者運動実行委員会ニュースより、転載しています。>

グリーンホールいっぱい。226人の参加で秋の集会を開催！

11月5日(日)第32回自治体に働く保育労働者の東京集会・秋の集会を、板橋・グリーンホールを会場に開催しました。「春の集会」に続き、完全対面で開催した集会は、何度も椅子を追加するほどの盛況ぶりで、14区3市・公共一般・保労研合わせて226名の参加がありました。

講演テーマは「子どもの声を聴き取る保育」

講師は加藤繁美先生(山梨大名誉教授)

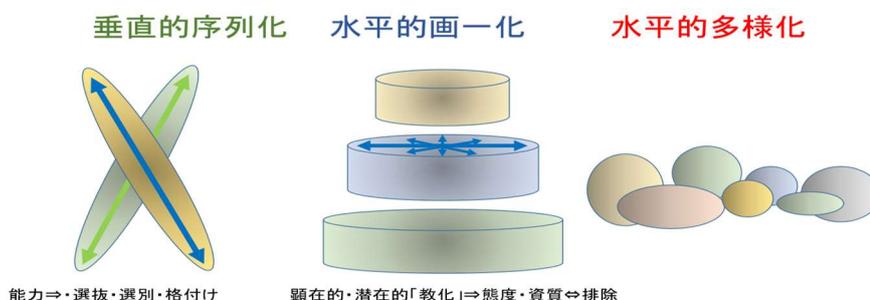
- 「子どもの声に耳を傾ける」ことは、保育実践の前提条件として大切なこと。子どもの声は子どもの願い…わかってはいるけど、声に応えていくことまでを含めるとリスニングの難しさの壁に当たる。
- 大人と子どもの1対1の話し合い…「対話的保育」は、真の意味で互いが対等な関係性といえるのだろうか？ といった問題提起から始まり、これまで「大人⇄子どもの関係性」で括られがちな保育の視点を、子ども同士の関係性を巻き込んでいく。「子どもの声を子どもが聴き取る。そして、相手を理解して相互の関係性を構築していく」視点で見えていくことが大切なのではないかという提起を受けました。
- 「教育を考える3つのイメージ図」という話題では、①できる・できないで格付けされた「垂直的序列化」と②みんな一緒、みんなで一体となる、でもそこに対応できない子は排除されかねない「水平的画一化」ではなく③いろいろな人がいるけどだれも孤立しない心地よい関係、どんな人間も無視をしない「水平的多様化」が大事なのだという話がありました。

「みんな違ってみんないい」で終わってはダメ。関心を持たないことが差別へ繋がってしまう。

一人一人違ったどんな「みんな」でも居場所をちゃんと作っていくことこそが重要なのだという話が強く印象に残りました。



教育を考える三つのイメージ図



子どもをありのままに尊重すること。施策の方向は…

講演の中では、イタリアの保育にも触れ、「おむつをいつ替えるのか」「いつの時間に何を食べるのか」もそれを決めるのは**子ども自身**という、イタリアの保育者の子どもの権利を徹底的に遵守する姿について触れられました。子どもを「社会を積極的に構成する市民」として、人としてありのままに尊重していくこと。「子ども時代は、社会化のための時期である」という考え方から転換していくことが必要なのだということも力強く訴えられました。

子ども家庭庁が発足し、「子どもの権利」は、日本でもにわかに注目されてきてはいます。

しかし、その中身を見ると、本当に「子どもを一人の市民として尊重しているのか？」という法案が次々と出され、もやもやとした思いや疑問がふつふつと湧いてきます。

今回の講演は、保育労働運動に携わるすべての人にとってそのもやもやが吹き飛ばすような、元氣と励みをもたらえる講演になったのではないかと思います。

また、書籍販売も再開し、加藤先生の新刊本「子どもの声を聞き取る保育」は見事完売！

はじめから最後まで熱気あふれ、大盛況のうちに終えることができました。



<参加者の感想>

★ 4、5回分位の学習会を1回で聞いたような。今、自分が欲していた、打破したい保育を溶きほぐしをしてもらったような感覚で刺激的でした。子どもの権利を守るこれからの保育。これをスタンダードにしていく。公立保育園がそのリードになる。街の保育をデザインする等、学び大きく嬉しかったです。

★加藤先生の講演と伺い、参加を決めました。先生のお話を聞き、子どもの言葉への共感という部分からさらに深め、クラスの子どもが子どもの声を聴くクラスづくり、子ども同士が対話すること。発信の弱い子の存在、2/3の未知の保育について考えさせられました。先生の書籍を手に入れ、学びを深め、保育に返していきたいと思います。

★地域に合った保育を作り出す公務労働の役割を改めて心に留めました。実行委員、役員の方々、ありがとうございました。

★久しぶりの加藤先生の講演を聞くことができました。社会に押し込めようとする保育ではなく、互いに尊重する関係。そして皆が一人ひとり社会の市民として構成されることが重要だと学習することができました。元氣になりました。

★時間を忘れるほど興味深く、たくさんの学びがある講演でした。5歳児保育の中で、子どもたちの市民会議の様子を見守り、一人一人の声を大切にしていきたいと思いました。また先生の講演を聞きたいです。明日の保育が楽しみです。

★今の公立保育に絶望しか感じていませんでした。感じているだけじゃだめだと思いました。

自分で声を上げないと、動かないと何も変わらないと思いました。希望と余力を持つことを大切にしたいと思います。